

報告書

1) 配給・食堂班報告書

17NSJ チャレンジサブキャンプ

配給・食堂班報告書

2018/8/20

班長 大澤 晶

◆食堂（サブキャンプスタッフ約 200 名への食事の提供）について

1. 総括
 - ・ 大きな混乱もなく、スタッフへの食事の提供ができたと評価します。
2. 工夫した点
 - ・ 待ち時間の撲滅（県連ごとの時間制、外国隊への会議テントの有効利用）
 - ・ 食堂内の動線の工夫（レイアウトの試行錯誤による改善）
 - ・ フリーコーナーの設置（消費期限内余剰品の活用）
 - ・ 生野菜等の提供（参加者余剰食材の有効利用）
 - ・ 明るい雰囲気場の提供（スタッフの笑顔、涼しげな飾り、明るい音楽の提供等）
3. 課題
 - ・ 食事の提供が始まりしばらくの期間、ごみの収集がなかった点（匂いの問題）
 - ・ スタッフの休暇日を検討（休暇を取るシフトを組んでいなかった）

※食堂係の詳細報告書は別紙参照

◆配給（サブキャンプ参加者約 2,800 名、75 区画への食材の提供）

1. 総括
 - ・ 一部課題はあったものの、概ね評価できると思います。
2. 工夫した点
 - ・ 朝の配給時間（食材の種類が夕方分より多い）を 30 分程度短縮、改善できた。
 - ・ （3 レーン各々で改善提案を行い、スタッフの役割を明確にし、時間短縮を達成）
 - ・ GHQ 食材担当者から配給に関する資料をもらい、配給食材の種類、数量情報をレーン担当者と情報共有し、配給品質の向上と時間短縮につなげた。
 - ・ アレルゲン、ハラル食材の配給に関しては専任者を設け、ミスがないようにした。
 - ・ 参加隊より奉仕の協力を得た。（15 名/日）
3. 課題
 - ・ スタッフの休暇日の検討（休暇を取るシフトを組んでいなかった）
 - ・ 薪の配給量に関する試算再検討（GHQ に対し）

※配給係の詳細は別紙参照

以上

2) 食堂係報告書

17NSJ 評価・反省 食堂:加藤

サブキャンプ食堂

◆ 食堂の役割に対して

- サブキャンプ食堂の役割に立てしては目標を達成できたと評価する
 - ・ 待ち時間の撲滅を実現
 - ・ 動線の工夫による混雑の防止
 - ・ テーブル、座席の不足による対応策の実現
 - ・ 食事量に対する工夫
 - ・ 明るい雰囲気を提供

◆ メニューに対して

- 食事を提供する側からすると、作業が湯煎だけでするので誰でも作業できる利点がある
- 食事を受ける側からすると、同じようなメニューで飽きてしまう。昼食の携行食は毎日菓子パンで「飽きる」という声が多かった。

◆ 配給量について

- サブキャンプ奉仕者に対する配給量はほぼ適正であったと感じる。
- 配給食材には賞味期限が明記されており、期限内の物は「フリーコーナー」を設置し、持ち帰りできる対応を施した。これにより、廃棄食材の低減が実現できた。
- 200gの湯煎パックの量は若い成人指導者にとっては、「不足である」との声があった。
- 参加隊のオーバーフローの食材回収量が多かった。

◆ 残飯回収の回数不足

- 大会前の残飯回収の設定がなされていなかった

◆ 食堂奉仕者について

- 食堂奉仕者が未経験のがほとんどであり、今後の課題である。
奉仕申込書に「過去の奉仕実績」などの情報を記載する

◆ 食堂班について

- 奉仕人数が不足しており、シフト運営が不可能であった。また、業務合理化も進まず奉仕者の休暇取得に至らなかった(1日16時間労働であった)。

◆ 大会運営について

- 事前情報の不足
- 事前情報が遅く対応不可能な事項もあった
- 事前情報と、ハンドブックとの不整合
- 事前情報と現場での状況が異なる場面が多発していた

以上

3) 配給係報告書

17NSJ チャレンジ SC 配給・食堂班 配給係活動報告

2018. 8. 20

配給・食堂班 配給係 宮崎 賞人

実際の活動は、6月14日付の配給部運営要項が出てから開始した。

会場入り前

1. 配給部運営要項記載の SC 配給テントレイアウト事例をもとに想定
2. スタッフをレーン別（3レーン）に配置する
3. クックブックが配信されたタイミングで、配給回ごとのレーン食材配置イメージを作成
4. 配給回ごとの食材名シートを作成（当初は箕子上に置く予定だったが、現地入りしスタッフとの打ち合わせで、箕子上にロープを張りつるす方法に変更）
5. 主だったスタッフと上記配給方法を共有するために打ち合わせを実施
6. 荷下ろしに関して参加隊からの奉仕を各県連事務局を通して依頼

会場入り後

1. 全スタッフと打ち合わせを行い、情報を共有
2. 事前には荷姿がわからなかったが、配給部の担当者より資料をいただきそれぞれの回のレーンごとの食材配置数（ケース、箱単位）を算出して、各レーン担当と情報を共有
3. 実際に配給を行うごとに問題点を改善していった
 - ※受付時のチェックボードを設置
 - 参加隊の配給指示書を借り、コピーを取り参考にした など
4. 参加隊の奉仕のおかげで荷下ろしから各レーンへの荷捌きまで平均 30 分ほどでできるようになった
5. 荷下ろしが順調に進んだため、配給時間前でも配給を開始し参加隊の集中を減らすようにした（配給は概ね 1 時間から 1 時間半で終了）
6. 薪の配給に関しては、スタッフ数が少ないため管理できないと判断し入場受付時に各参加隊隊長に説明をし、各参加隊に委ねた 時々手のあいているスタッフが立ち合い指導した

総括

- スタッフ（半数はローバースカウト）が業務に真摯に取り組んでくれ、配給回ごとに改善点を挙げ常に業務の改善に取り組んでくれたことが比較的順調に配給業務を実施できた一番の要因
- 配給部の SC 担当者に恵まれコミュニケーションがとれ、そのために業務がスムーズに進んだ
- 配給も食材をただ配るだけでなくスカウト教育の一部であるとスタッフと共有し、時間があればピックアップ方式のスムーズなやり方をスカウトに指導することを心掛けた
- 配給資料など早い段階で公開していただけると早くから準備ができたと思う

- ジャがいも、にんじんなどの日持ちのする野菜については、その都度配給しなくても初回使用時に一括配給でもよかったのではないか
- 残った食材の対応について、参加隊数が 75 と多く追加配給は公平性を欠き難いため、SC 食堂で消費したりブレバリーSC とやりくりしたがそれでも残ったものは廃棄と班員で分け持ち帰った
- 配給部運営要項には撤収日になり残った食材は、配給食堂部で回収し、処理するとあったが、回収はされなかった
- 薪に関しては、トンパツクの容量が想定よりも不足していたのではないか？スカウトの技量を考慮し多めに見積もる必要があったのではないか
- スタッフの人数によって薪の配給に関してはほとんど立ち会うことはできなかった

以上